

モユク・カムイ

★モユク・カムイ（アイヌ語でエゾタヌキのことです。）

飼育動物数 (7月1日現在)

哺乳類	40種	161点
鳥類	87	381
は虫類	4	22
計	131	564



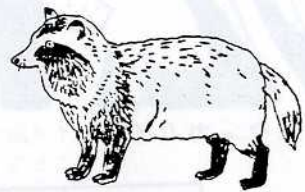
NO.
9

エゾタヌキ

Nyctereutes procyonoides albus

6月24日にエゾタヌキの赤ちゃんが2頭産まれました。真っ黒でまん丸顔の赤ちゃんはとてもタヌキの赤ちゃんとは思われません。『キンタ』、『クンタ』と名付けられ飼育係に大切に育てられています。生まれたときは80g位だったのが、1日に6回、イヌ用ミルク20ccをのんで、今では『キンタ』293g『クンタ』243gにもなりました。目もぱっちりときき鼻づらもちょっとだけ長くなり、やっとタヌキらしくなって来ました。でも匂いの方は一人前のタヌキですよ。

エゾタヌキの繁殖



タヌキは日本をはじめ朝鮮半島、中国、南はベトナム北部、北は沿海州、アムール、ウスリーにわたる東アジアに生息しています。日本では南西諸島と対島を除くほぼ全域に生息しており、北海道のものをエゾタヌキ、その他の地域の物をホンドタヌキと二亜種に分けています。

旭山動物園では3年前より本格的な『エゾタヌキの繁殖実験』に取り組み、それまで雑居飼育だったタヌキの群れからA、B、Cの3つがいを作り実験を始めました。実験のねらいは繁殖に体重の変化が

どのように関係しているかを調べ、それを繁殖へ結び付けることでした。というのは、春先旭山動物園に保護されてくるエゾタヌキはすべてガラガラに痩せており、ひどいになると体重が2Kg以下になってしまっているものもいます。秋に十分”食いだめ”してコロコロに太ったタヌキも厳しい冬を乗り越える間にすっかり痩せてしまいます。そして春、体重を元に戻してから子を産むようです。ところが旭山動物園のタヌキたちは冬の間、餌をたくさん食べることができると、春を迎えてもコロコロに太ったままだったのです。繁殖しない原因はこの辺にあると考えました。

実験は与える餌の量を加減し週1回ずつ体重を測定しました。その結果、1年目はAつがいだけが繁殖し、このときの体重減少率はオス28.4%、メス31.5%でした。2年目はAとCのつがいが繁殖し、このときの体重減少率はA…オス26.0%、メス23.6%、B…オス30.0%、メス30.3%でした。今年3年目で、A、B、Cの3つがいすべてが子を産みました。体重の減少率はそれぞれA…オス24.7%、メス27.5%、C…オス23.8%、メス25.8%、また今まで繁殖しなかったBは2月15日の時点で他のつがいよりもおよそ1Kgほど重かったため、4月はじめまでにオス5.5Kg、メス5.5Kgと他の個体と同じくらいにまで体重を落としたところ、6月24日初めて繁殖に成功しました。

体重の減少と繁殖にはなんらかの係わりがあることは確かなようですが、それが何なのかこれからも研究を続けて明らかにして行きたいと思えます。(坂野)

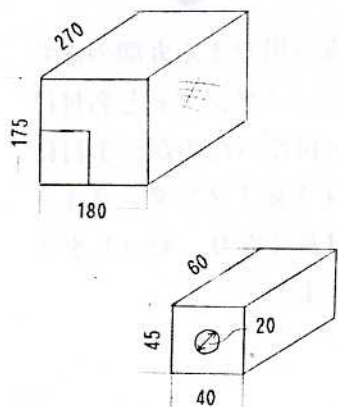


表1 エゾタヌキの体重変化 (S59.12.1~60.2.15)

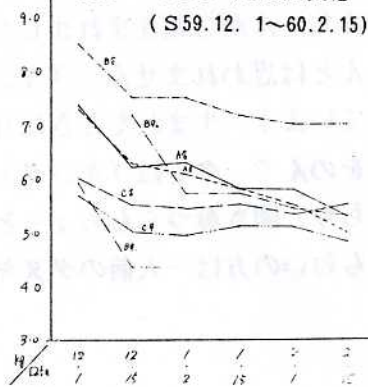
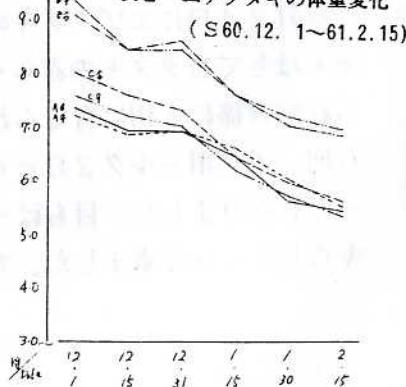


表2 エゾタヌキの体重変化 (S60.12.1~61.2.15)



げんちゃんが見てきた動物園

ヨーロッパの動物園 その1

6月下旬の2週間ヨーロッパ各地の動物園を見てきましたので、何回かに分けてその感想などを書いていきます。

イギリスではロンドン動物園とホイップスネード動物公園を見学しました。ロンドン動物園は1829年に開園し、ZOOという言葉の始まりとなった動物園です。広さは15ヘクタールで、旭山動物園と同じくらいの大きさです。

最初に案内されたのはロンドン動物園で一番新しい獣舎である『夜行獣館』で中はほとんど真っ暗、[スリに注意]という看板が印象的でした。小型の夜行性動物が多く展示されており、ウシの頭蓋骨なども利用して面白いジオラマ展示をしていました。

その後園内を見てまわったのですが、動物の種類によってみせ方にわけへだてがないのには感心しました。例えばパンダだからといって特別な扱いはしておらず、お客さんも特別な感心をもってはいないようでした。日本では珍獣ブームで動物園もそれののっかって入場者数を増やそうとする傾向がみられるようですが、考え直さなければならぬことだと痛切に考えさせられました。

翌日、ロンドン動物園の分園であるホイップスネード動物公園を見学しました。ここは言わばロンドン動物園の繁殖場で、貴重な野生動物を動物園のために捕獲しなくてはむように動物園の動物は動物園で繁殖させなければならないという考えで設立されています。広さは291ヘクタールで車で見学させてもらいました。

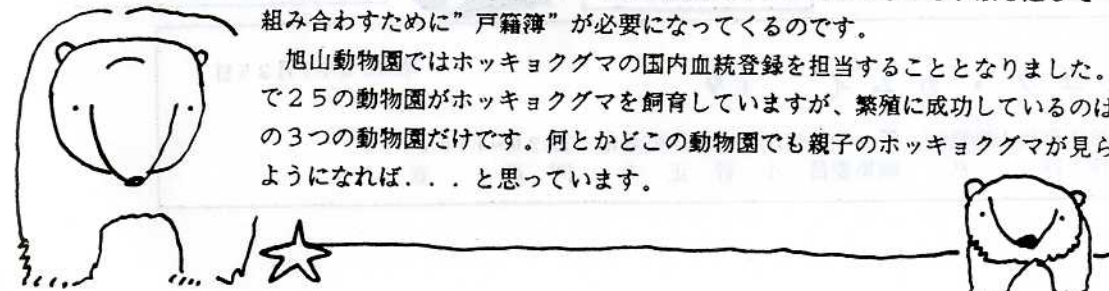
動物園の話題 ← ちょっと考えてみたい事 知ってほしい事

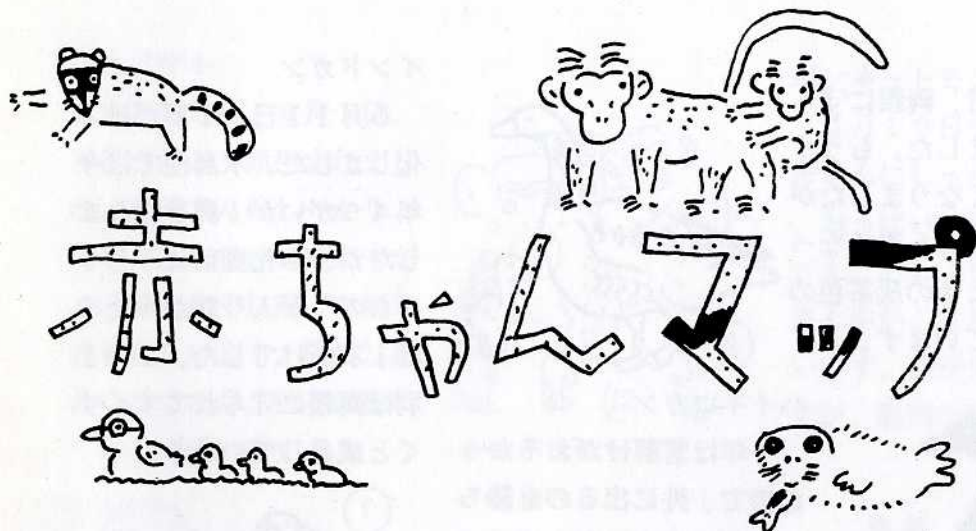
☆血統登録

動物園で飼育している動物を何とか繁殖させようと、日本中の動物園と水族館の集まりである「日本動物園水族館協会」の自然保護部会では、動物園や水族館で飼育されている野生動物の”戸籍簿”作りを始めました。トラやゴリラ、アジアゾウなど30種の動物について、年齢、出生地、繁殖状況などきめ細かなデータを登録しておくわけです。

動物園などでは飼育場の関係で、飼育できる個体数に限度があるわけですが、最初に入園したペアに子が産まれても、次の代には子同士、さらに孫同志と「近親結婚」が進み、ついには繁殖しなくなる例がよく見られます。また、どうしても相性が合わず仲が悪いまま年をとってしまうものもあります。このようなとき、最も適したペアを組み合わせるために”戸籍簿”が必要になってくるのです。

旭山動物園ではホッキョクグマの国内血統登録を担当することとなりました。全国で25の動物園がホッキョクグマを飼育していますが、繁殖に成功しているのは道内の3つの動物園だけです。何とかこの動物園でも親子のホッキョクグマが見られるようになれば...と思っています。





→ 1987年版 ←

今年もたくさん生まれました。
この地図を見ながらさがしに行こう。



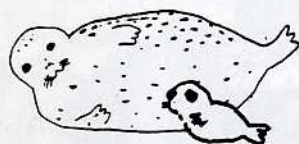
旭山動物園

ASAHIYAMA ZOO

ゴマフアザラシ

4月13日生れ。生まれて10日ほどでお母さんが死んでしまい、飼育係に育てられています。最近ようやくホッケを自分で食べられるようになりました。体重25Kgです。

④



アライグマ ⑤

3月13日生れ。今年は7頭兄弟です。生まれたときは80g位ですが、今では2Kgにもなり、子育ての苦勞で痩せているお母さんよりも太っているくらいです。

アカハナグマ

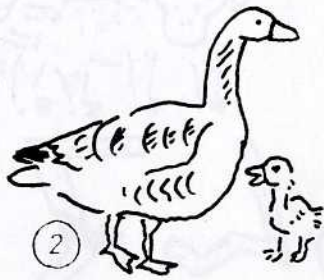
5月8日生れ。今年はひとりっこで、お母さんに大切に育てられています。まだ1Kgにもならないのですが、もう鼻は長くとがり、長いしっぽにはリングもようがついています。

⑥



① コクチョウ

3月15日、両親に守られてふ化しました。もうすっかり大きくなりましたが、まだくちばしも赤くならず、ヒナの灰茶色の羽毛も残っています。



② ハイイロガン

今年は雪解けがおそかったので、外に出るのを待ち切れずに室内で卵を産んでしまいました。5月21日1羽がふ化し、順調に大きくなっています。旭山動物園では初めての繁殖です。



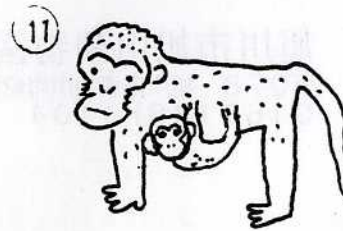
インドガン

6月11日、1羽だけふ化しました。水鳥池では今年4つがい1卵を産みましたが、ふ化直前に”じゃまもの”が入り助かったのは1羽だけでした。この1羽は両親に守られてすくすくと成長しています。



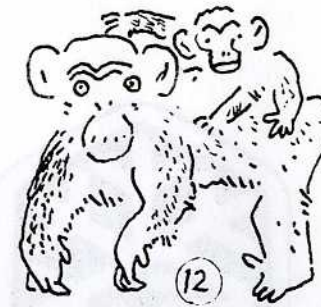
アカゲザル

3月30日、4月1日、5月5日と3頭生まれました。お母さんはしっかりと赤ちゃんを抱いていますが、3頭それぞれ違った抱き方をしています。腕にしがみつかせたり、逆さに抱いているものもいます。



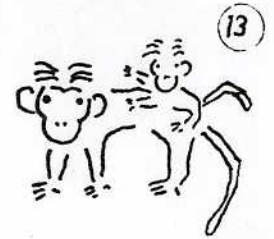
ボンネットモンキー

4月19日生れ。まだお母さんにしっかりと抱かれ、おっばいから口を離しません。でも、もう頭の毛は真ん中からきちんと分けています。額が少し広いのですが、聡明な証拠です。

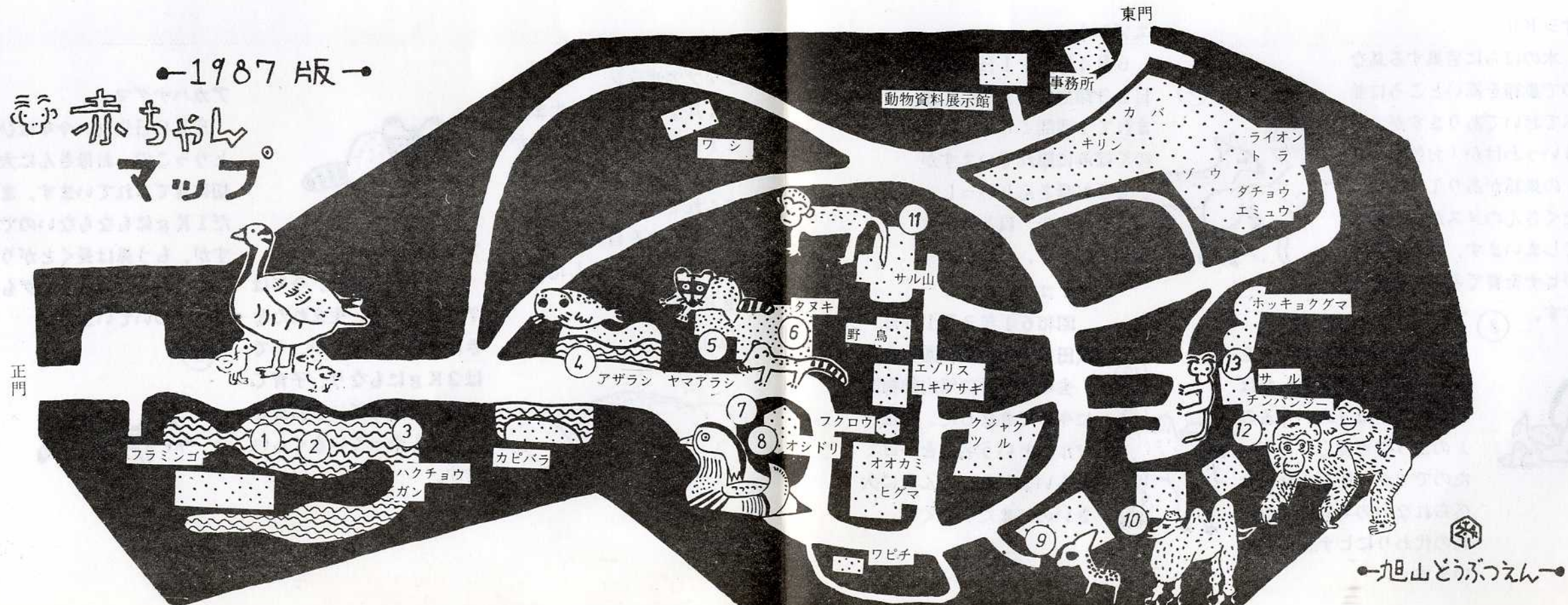


チンパンジー

昭和60年3月10日生れ、2才。要約お父さん、お姉さんと遊べるようになりましたが、甘えん坊で、やっぱりお母さんに抱っこされているのが大好きです



●1987 年版●
赤ちゃんマップ





発行 旭川市旭山動物園
〒078 旭川市東旭川町倉沼
0166(36)1104

⑦ オシドリ

木のほらに営巣する鳥なので巣箱を高いところに並べておいてありますが、どういうわけか「お気に入り」の巣箱があり1つの箱にたくさんのメスが卵を産んでしまいます。でも飼育係がヒナを育てるので大丈夫です。



⑧ アカリユウキュウガモ

2つがいの夫婦がヒナをかえました。ふ化したばかりのヒナは『ぬいぐるみ』のような可愛らしさだったのですが、餌を十分に食べられないので飼育係が親鳥の代わりにヒナを育てています。

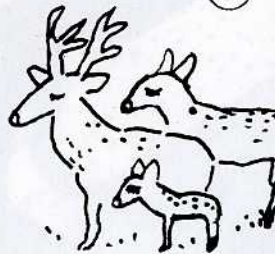
エゾシカ

6月4日、11日、21日と3頭生まれました。生まれて1週間くらいは地面のくぼみに隠れていますが、もうお母さんといっしょに『群れ』の一員として生活しています。

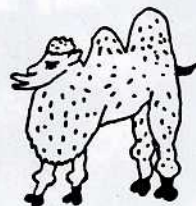
フタコブラクダ

昭和61年3月13日、秋田市大森山動物園生まれ去年11月に旭山動物園にやってきました。今度『マル』という名前をつけてもらいました。こんなに大きいのにまだ1才です。

⑨



⑩



動物園 日誌

- | | |
|---|---|
| 4.13 ゴマフアザラシ出産 | 5.26 日本動物園水族館協会通常総会並びに協議会
於：旭川市（～28） |
| 4.19 ボンネットモンキー出産 | 5.28 旭山動物園開園20周年記念講演会
『パンダ・ラッコを語る集い』 |
| 4.22 アフリカタテガミヤマアザラシ（メス）入園
札幌市円山動物園より贈られる | 6.29 ZOOガイド 旭川盲学校 |
| 4.23 ゴマフアザラシの母親死亡
赤ちゃんは飼育係が育てる | 6.4 エゾシカ出産（11,21）
第123回飼育研究会
「タイワンザルの繁殖」小林 |
| 4.25 ホッキョクグマの『コロ』にお嫁さん入園 | 6.10 アライグマ公開 |
| 4.26 アフリカタテガミヤマアザラシ（オス）入園 | 6.11 インドガンふ化
旭川医科大学生物学実習（～11） |
| 4.27 オオカナダヅル入園
東京都恩賜上野動物園より贈られる | 6.14 オオタカふ化 |
| 4.29 昭和62年度旭山動物園開園
オープンバレード 旭川第七小学校
永山南中学校
動物資料館特別展 『小さな動物たちー
ネズミ、リス、ウサギの世界』
動物ぬりえ募集（～6.30）
児童動物画コンクール作品募集（～8.20） | 6.16 ZOOガイド 日赤保育園
6.17 ZOOガイド 西神楽公民館
6.20 オシドリ、アカリュウキュウガモふ化
6.26 日本動物園水族館協会北海道ブロック動物園技術者研究会 於：帯広動物園（27）
「動物園教育活動」阿部、「アムールトラに見られたカリシウィルス感染症」小菅 |
| 5.1 ホッキョクグマ、フタコブラクダの愛称名募集（～31） | 6.30 ZOOガイド 東五条小学校 |
| 5.5 アカゲザル出産
HBCラジオ公開生放送 | 7.10 北海道教育大旭川分校生物学実習
旭山動物園20周年記念展（～15）
於：西武デパート |
| 5.8 アカハナグマ出産 | 7.12 旭山動物園ウォーク・ラリー
雨天のため延期（9月初旬予定） |
| 5.10 第1回ワンポイント・ガイド『カバ』
サクラまつり | 7.18 動物資料館特別展『鳥とともだち』～8.31 |
| 5.13 旭川第一中学校（飼育実習） | 7.19 ホッキョクグマ、フタコブラクダ命名式
旭山動物園サマーフェスティバル～8.23） |
| 5.14 第122回飼育研究会
「クロオオカミの出産」辻栄 | |
| 5.21 ハイイロガンふ化 | |
| 5.25 ZOOガイド のぞみ保育園 | |

今年（昭和62年）は開園20周年にあたり開園期間中たくさんの行事が催されております。夏休み期間にも夜間開園などの楽しい企画がたくさん用意してあります。ぜひ、動物園を楽しんで下さい。

ワンポイント・ガイド

夜の動物園 7月7日～16日

今回初めての試みです。動物たちの夜の姿を見にきませんか。いろいろ催しをしています。

- 8.30 動物園の台所
- 9.6 フタコブラクダ
- 9.13 ライオン
- 9.15 アフリカゾウ



親子動物教室

今年（昭和62年）は動物の行動を中心に観察して下さい。当日申し込みを受け付けます。

- 7.26 動物の行動を探る
- 8.2 うんこに見る行動学
- 8.9 夜の動物たち（哺乳類）
- 8.16 夜の動物たち（鳥類）
- 8.23 動物の動きを画く

モユク・カムイ 第9

昭和62年7月25日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078 旭川市東旭川町倉沼 電話 36-1104
編集人 菅野 浩 編集委員 小菅 正夫 阿部 寛